

令和8年熊本高校42会芸術祭 全作品

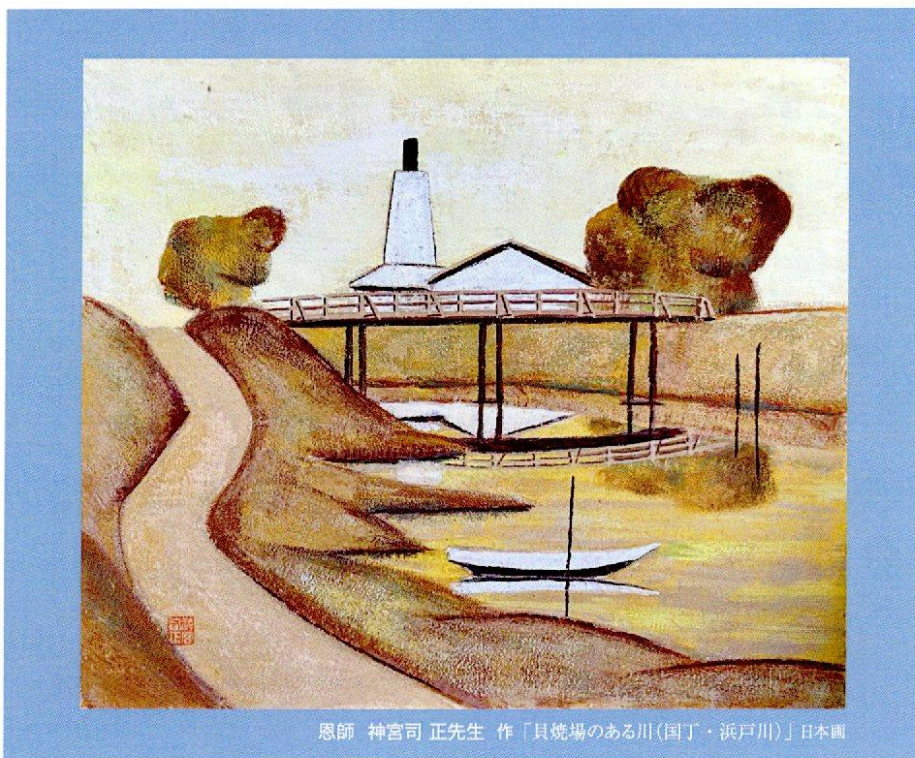
会期：2026_0512～0522

会場：ギャラリー・カフェ「不言亭」



第15回 KUMAMOTO HIGH SCHOOL 42KAI ART FESTA 熊本高校42会芸術祭

本芸術祭は、熊本高校を昭和42年に卒業した仲間の作品展です。
本年で第15回目を迎えました。今回は神宮司正先生・廣島正君の遺作をはじめ、42会の仲間13名の様々なジャンルの力作を鑑賞していただければ幸いです。
今後も続く限り、制作・出品に取り組みたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、ご高覧いただき、ありがとうございます。



恩師 神宮司 正先生 作「貝焼場のある川(国丁・浜戸川)」日本画

会期／ 2026年5月12日(火)～22日(金)

会場／ ギャラリー・カフェ不言亭

熊本市中央区南千反畑町12-19 TEL.096-352-3532

●熊高42会 芸術部

部長 佐伯眞知子 7室
副部長 長渡 純三 9室

●熊高42会

会長 佐伯眞知子 7室
事務局長 辰巳 仁 9室

●熊高42会 出品者

狩塚 精一 9室
清田 憲男 6室
山田 信一 4室
服部 幸夫 5室
米村 勲 5室
鈴木慎一郎 5室
菅原 州一 7室
陣内 勝治 7室
長渡 純三 9室
菅野 隆明 5室
佐伯眞知子 7室
田代 順二 11室
田中 信明 1室

●遺作

神宮司 正 先生
廣島 正 10室

●飛び入り

鮎川 久雄 3室



第15回 熊本高校42会芸術祭

出品者	室	作品名	サイズ	ジャンル
狩塚 精一	9室	修二会 大松明 (東大寺二月堂)		写真
		まなびやの睡蓮 (奈良女子大学)		〃
		暮れなずむ富士 (朝霧高原)		〃
		幽玄の月食 (平城京大極殿)		〃
菅野 隆明	5室	春・夏・秋・冬 [狩塚精一君の写真とコラボレーション]		俳句
清田 憲男	6室	初夏の紅	56x44	木版画
		開聞岳の空	42x54	〃
山田 信一	4室	太陽の道 (肥薩おれんじ鉄道 西方～薩摩大川)		写真
		ニーナ快走 (JR西日本 山陽本線 西川原～岡山)		〃
		C11190の現役時代 (国鉄 三角線 網田駅)		〃
服部 幸夫	5室	四季の息吹 春「花影」		写真
		四季の息吹 夏「激流」		〃
		四季の息吹 秋「爽籟」		〃
		四季の息吹 冬「開聞岳」		〃
陣内 勝治	7室	京都 高尾の秋	F8	アクリル画
田代 順二	11室	ダンボールあそび		クラフト
鮎川久雄/服部幸夫		菊池溪谷		
		秋の愁 ^{うれ}		
狩塚 精一		ダイヤモンド富士 (静岡)		

出品者	室	作品名	サイズ	ジャンル
長渡 純三	9室	モーツアルトの街ザルツブルグ	ワイド4切	写真
		シニア音楽愛好会(ボン・シューマン夫妻墓碑)	〃	〃
米村 勲	5室	月下炎上	A4	写真
		影法師	〃	〃
鈴木慎一郎	5室	白菜	F6	油彩画
		陽春の根子岳	SM	〃
菅原 州一	7室	ふるさとの小学校	全紙	写真
		夏の鹿川溪谷	〃	〃
		SL阿蘇ボーイ	〃	〃
		ちょっと こっち向いて!	〃	〃
佐伯眞知子	7室	メイちゃんと	F10	油彩画
		夕明かり	〃	〃
田中 信明	1室	LP・CDのジャケットに使用された名画の数々		
遺作				
神宮司 正先生	恩師高2回卒	貝焼場のある川 (国丁・浜戸川)	F8	日本画
廣島 正	10室	うそのよな 十六ざくら 咲にけり		切絵

順不同

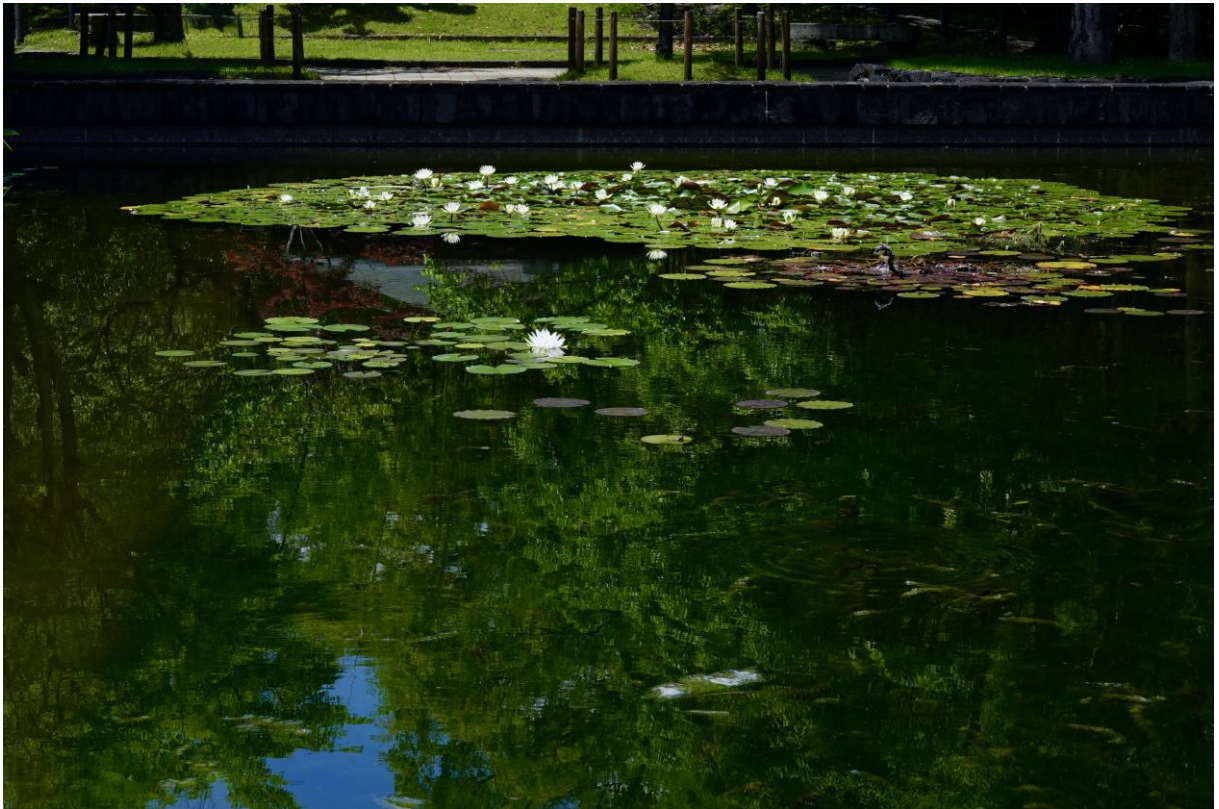


東大寺二月堂修二会 大松明

「青丹よし奈良に春呼ぶ お水取」

俳句：菅野隆明 5室、写真：狩塚精一 9室 ㊦四切 写真

昨年の打ち上げ会で菅野さんから「来年は私の俳句とコラボしませんか」と提案を受けました。句集を自費出版されている俳人からの一言に一瞬、躊躇しましたが、何事も勉強と考えてお受けしました。私が季節ごとに写真数枚お送りし、菅野さんに俳句を詠む写真を選択してもらい四季折々四点のコラボ作品が出来あがりました。期せずして、私も気に入っている写真を選んでいただきました。大学で夏目漱石論を教えていた友人に見せたところ「俳句がよいので写真が活かされている」との批評をもらい、コラボをお受けして良かったと思いました。(狩塚精一)



奈良女子大 まなびやの睡蓮

「睡蓮は覚め学舎(まなびや) 森閑と」

俳句：菅野隆明 5室、写真：狩塚精一 9室 写真 四切

今年はガンの治療やらで、俳画を出せなかったが、狩塚君の素晴らしい写真とコラボレーション出来て幸せでした。奈良のお水取りや奈良女子大の睡蓮の池など、春夏秋冬の新作の俳句でした。(菅野隆明)



朝霧高原 暮れなずむ富士

「北斎に捧げむ富士の花芒」

俳句：菅野隆明 5室、写真：狩塚精一 9室 71ト^レ四切 写真



平城京大極殿 幽玄の月

「月食や妖しく光る兎の眼」

俳句：菅野隆明 5室、写真：狩塚精一 9室 ワト^レ四切 写真



初夏の紅

清田憲男 6室

56x44 木版画

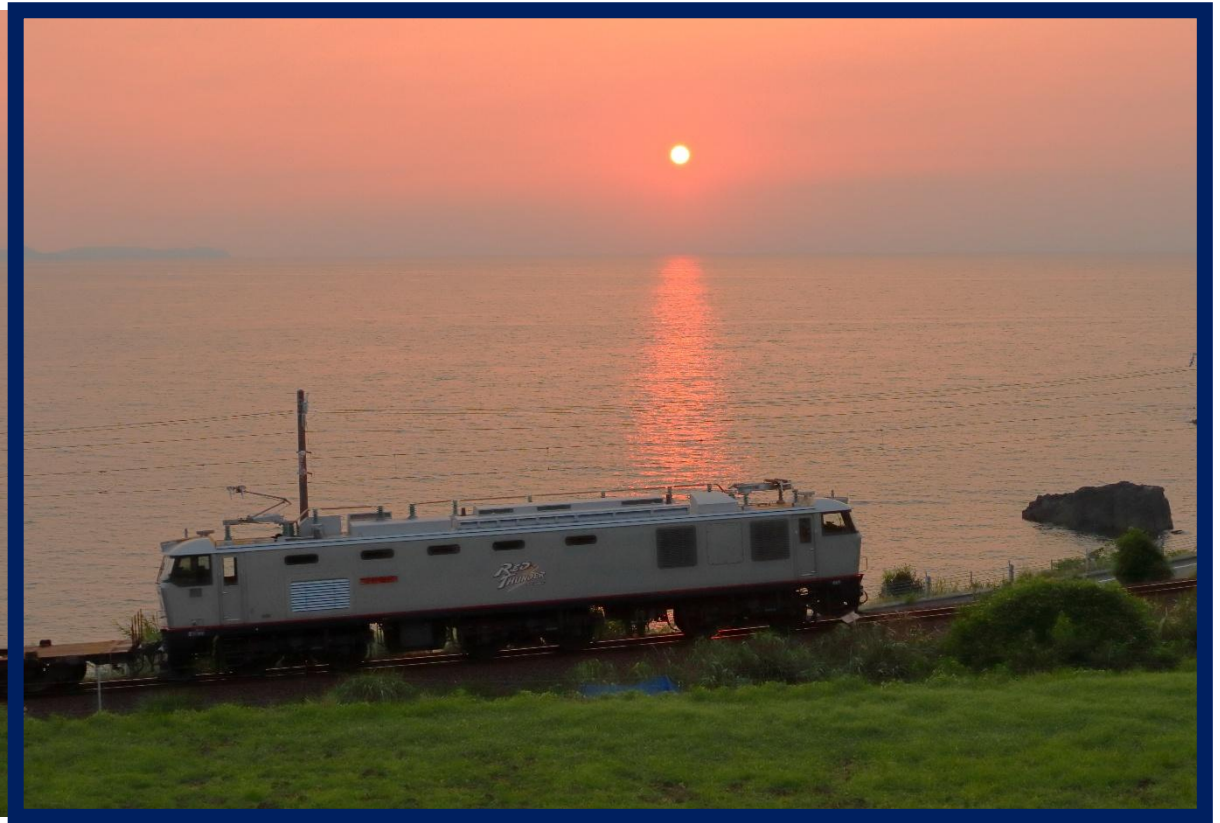
17歳の熊高生は60年経過して77歳 喜寿に至る。身体の衰退兆候は否めない。5月は総会の季節 東の阿蘇連山の山頂が紅に染まる季節でもある・・・燃える色は オーイ 君達 元気の素のエネルギーは残っているか?と問いかけているようだ。作品の上手い、下手は別次元 紅色に染まる山肌に触発され全員が喜寿越えの活力を漲らせて欲しいと思います。



開聞岳の空

清田憲男 42x54 木版画

昨年 10 月下旬 友人の都合で、レンタカー一人旅になり薩南半島へ 知覧の武家屋敷に立ち寄り、枕崎経由で国道を指宿方面へ向かう。薩摩富士は道路沿いの風景に合わせ変化させながらチラチラと姿をみせる。良いスポットを探して海岸線を往来し、四度目で侵入した磯に出ると、「ようこそ」と開聞岳が言ってるような、周辺と調和した私好みの風景に出会いました。澄み渡る青空と清浄な海と上下に挟まれ、形状が可愛らしく、上品で素朴な役者さんです。その場で呼吸をするだけで、静かに感動が溢れ出る時間でした、今年に入り版画にしました。・・・番所鼻公園、過去に伊能忠敬も立寄った景勝地。磯にステキな喫茶店もあり、素敵な女性が作るコーヒーも？



太陽の道

山田信一 4室 写真



ニ一十快走

山田信一 4室 写真



C11190 の現役時代

山田信一 4室 写真



四季の息吹(いぶき) 春「花翳」

「花冷えの細き陽射の花びらに透く影眩しく清らかに」

服部幸夫 5室 ワイト四切 写真

桜の花の美しさは、朝陽や夕陽を横から浴びて、花びらが翳るところにもあるように思われます。一気に咲いて華やかさを誇り、そしてさっと散る運命(さだめ)の桜花は、日本人の伝統的な死生観を反映していると言われます。「死」を意識した生き方には、華やかさ(生命)の蔭に「もののあわれ」が感じられます。そこに、他者を思い遣る心も秘められており、それが日本文化の根本を成しているのではないのでしょうか。我々も四季ならぬ死期が近づきました。心構えは如何でしょうか。



四季の息吹(いぶき) 夏「激流」

「木漏れ日に溪流岩に激突し砕けて白き飛沫(しぶき)吹きあぐ」

服部幸夫 5室 ワイト四切 写真

菊池溪谷だったと思います。激流が河床の岩石に砕け散り、白い飛沫を噴き上げる様には、無限のエネルギーを感じさせられます。生きる事とはエネルギーに他なりません。激流の力強さにア然とすると共に、ある種の羨望さえ湧き上がります。



四季の息吹(いぶき) 秋「爽籟(そうらい)」

「道野辺の芒の花穂(かすい)空を指し流れる雲の夕泥(なずむ)」

服部幸夫 5室 ワイト四切 写真

爽籟(そうらい)：「秋風のさわやかなひびき」を指します。具体的には、秋の澄んだ空気や風の音を表現した言葉です

秋の夕暮れです。通りがかりの路傍に見られたすゝきの花穂(かすい)が、暮れなずむ豊後の山々を背景に、秋風に靡いていました。淋しく、また侘しい風景です。それが人間存在の本質だから、この景色に共感するのではないのでしょうか。人間も自然の一部であることを思い知らされます。そして、我々はもう暫くで、この自然へ還ります。

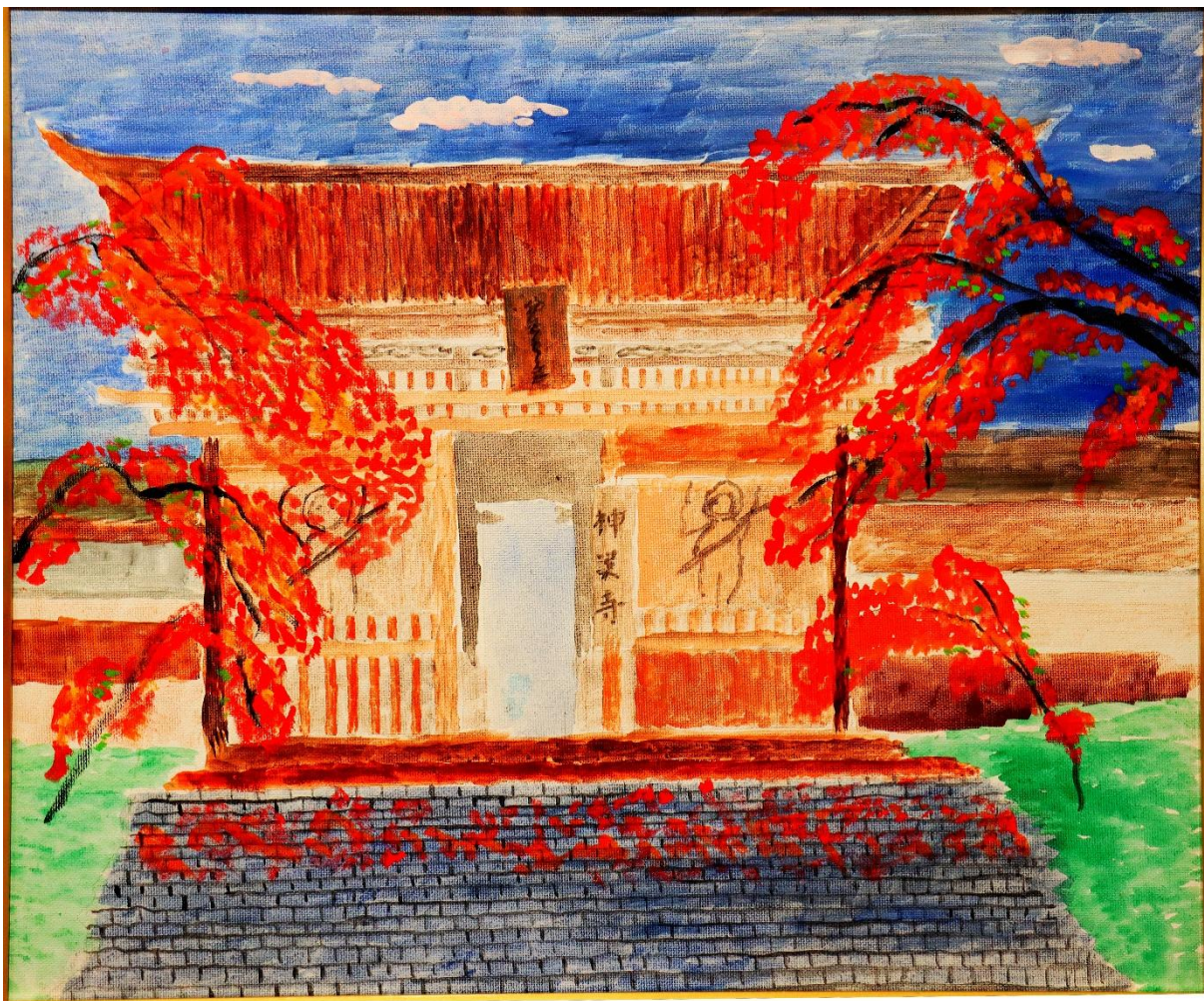


四季の息吹(いぶき) 冬「開聞岳」

「端正な開聞岳は冬空に聳えて海は潮目の縞なす」

服部幸夫 5室 ワイト四切 写真

大隅半島から眺める開聞岳は富士山のような端麗さを見せており、魅了されました。それだけでなく、その開聞岳を背景にした錦江湾に描かれた規則正しい潮目の縞には、驚かされました。自然は本当に芸術家であることを思い知らされました。



京都 高尾の秋

陣内勝治 7室 F8 アクリル画



ダンボール遊び

田代順二 11室

クラフト

ダンボールを切り刻むときに自分の手指までザックリ切り刻んだダンボール遊びの迷作です。

(田代順二)

作品中の英語の文章の一つひとつが、なかなか意味深で、興味深いものがあります(編者)

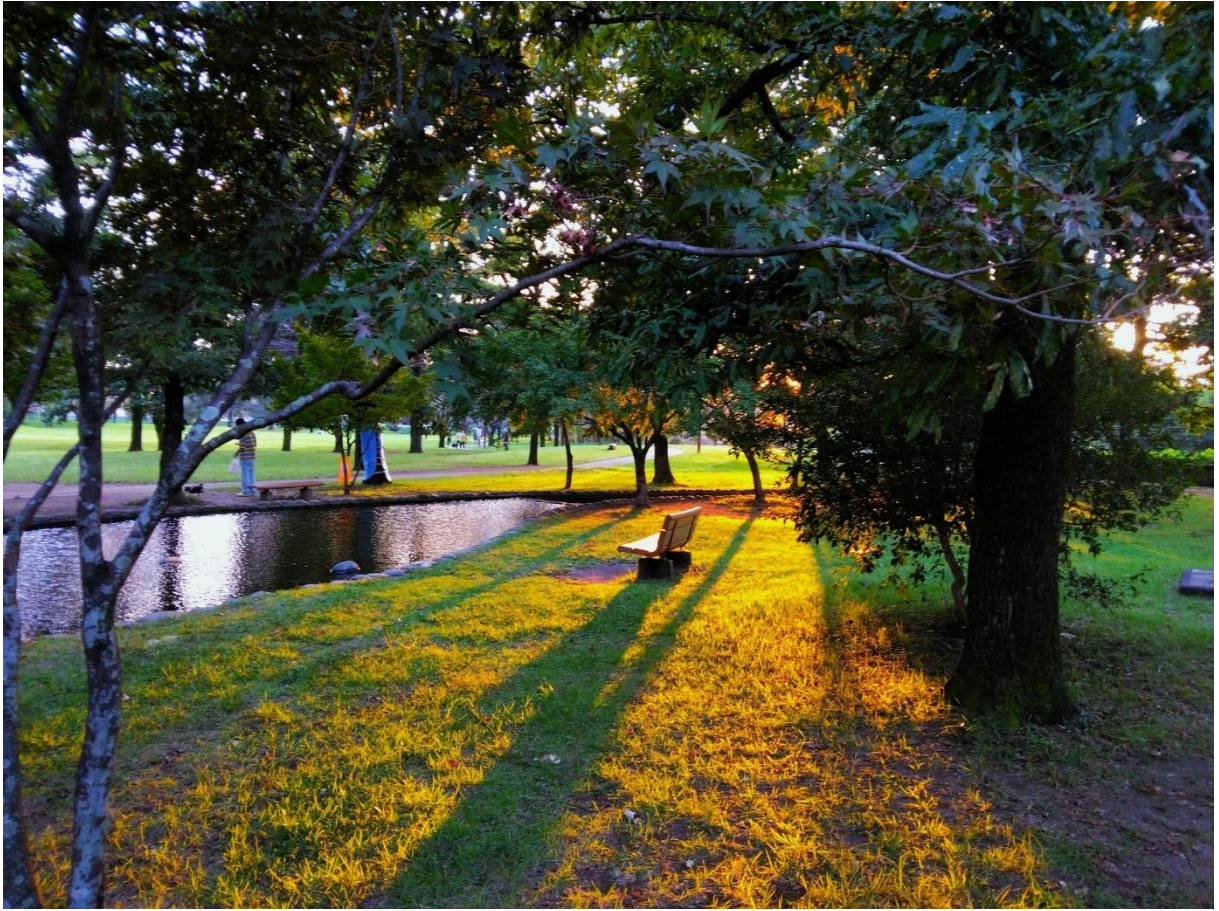


菊池溪谷

「夏深き溪谷下るせゝらぎは 冷たく清く 熱気和らぐ」

鮎川久雄 3 室（写真） / 服部幸夫 5 室（短歌） ワイト`四切 写真

菊池溪谷には阿蘇山に由来する豊富な水が溢れています。その水は極めて冷たく、深み（淵）では澄んだ青色が一段と深まります。写真では写せませんが、小さな瀑布の発する連続音が辺りを圧しています。冷気も相まって、命の瑞々しさに改めて覚醒させられました。自然には限りない「命」がありました。鮎川君がその有様を生きいきと捉えられました。



秋の愁^(うれい)

「秋の陽の西に傾き木の影の池端^(いけは)の草地に長き筋なす」

鮎川久雄 3 室 (写真) / 服部幸夫 5 室 (短歌) 写^レト^ク 四切 写真

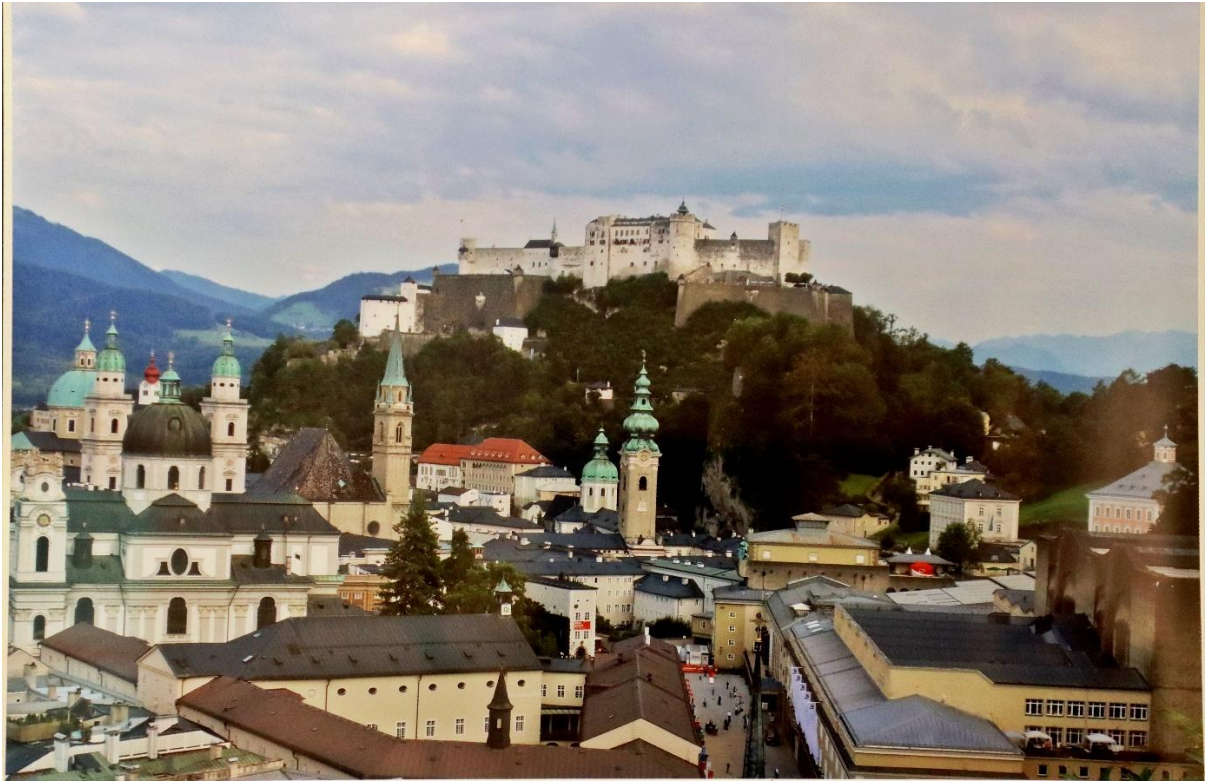
秋の夕陽が水辺の草地に射しています。その明かりを受けた木々は大地に長い影を投げています。淋しくも、心の落ち着く光景です。光と影の対照が際立ちます。命の本質もこのようなものなのかもしれません。泣き、笑い、嘆き、苦しみ---。そして、一人ひとりの人生に幕が降ろされます。そこには、富貴も卑賤も、名誉も地位も、更には競争もジェラシーもプライドも、何もありません。それが分かってしまうと、何に拘ることもありませんでした。



ダイヤモンド富士

狩塚精一 9室 (写真) 臼ノ四切 写真

私は富士山を撮影するため静岡県の休暇村富士に時折宿泊しています。山頂中心付近から朝日が昇るダイヤモンド富士は、この休暇村からは4月20日と8月20日しか鑑賞できないということで4月20日の撮影にチャレンジしました。幸い好天に恵まれ湖面に映るダブルダイヤモンド富士を撮影できました。山頂に雲が流れないこと、湖面に波が立たないことが条件になります。自然が創造する2、3分のビッグショウ。荘厳な雰囲気にもまれ、身も心も硬直しつつ連写のシャッターを切りました。人間は自然から食材と芸術の素材をいただき、生かされている存在であることを実感しました。(狩塚)



モーツアルトの街ザルツブルグ

長渡純三 9室 ワイト四切 写真



シニア音楽愛好会(ボン・シューマン夫妻墓碑)

長渡純三 9室 ワイド四切 写真



月下炎上

米村 勲 5室 A4 写真



影法師

米村 勲 5室 A4 写真



白菜

鈴木 慎一郎 5室 F6 油彩画



陽春の根子岳

鈴木 慎一郎 5室 SM 油彩画



ふるさとの小学校

菅原州一 7室 全紙 写真



夏の鹿川溪谷

菅原州一 7室 全紙 写真



SL 阿蘇ボーイ

菅原州一 7室 全紙 写真



ちよつとこっち向いて！

菅原州一 7室 全紙 写真



メイちゃんと

佐伯真知子 7室 F10 油彩画

愛犬メイが余命1年と宣告されて、慌てて描き始めました。しかし、メイは余命1年どころか、宣告の3カ月後に昇天しました。その後は、辛くて描き続けることが出来ず、中断していましたが、傷心が少し和らいで、やっと完成させることが出来ました。愛する存在を失うのは、本当に辛いものですね。互いを裏切ることなく、何処までも信じ合えるのが、私と愛犬の関係でした---



夕明かり

佐伯真知子 7室 F10 油彩画

近日中に転居の予定です。長年住み慣れた家から眺めた、最後の夕陽です。真赤に燃える夕焼けの中に、普賢岳がシルエットを成しています。この家で、人生の大部分を過ごしました。思い出が、いっぱいです。その一つひとつに、目頭が熱くなります。その思い出の全てを、この夕焼けが洗い流してくれているようです。

Vinyl CD のジャケット表紙に使われた名画の数々

Joni Mitchell - Turbulent Indigo 1994 フォーク・ロック
ジョニ本人自筆

ゴッホ (包帯を巻いた自画像) 1889

The Monks Quartet - misterioso 1958 ジャズピアノ

The Monks Quartet - Plays Duke Ellington 1958 ジャズ

Pearl Before Swine - BALAKLAVA 1968 反戦フォークロック
豚に真珠 - BALAKLAVA: クリミア戦争の激戦地=目出し帽(バラクラヴァ)名前の由来

アンリ・ルソー『ライオンのお食事』1907年頃

ピーテル・ブリューゲル『死の勝利』1562

エドヴァルド・ムンク『叫び』1893
テンペラ油絵, 1910

バステル, 1893

リトグラフ, 1895

Dead Kennedys - Kill The Poor 1980
パンク・ロック

Pearls Before Swine - 地下国家
- One Nation Underground 1967
サイケデリックロック

ルノワール『ムーランド・ラ・ギャレットの舞踏会』1876

The Streets - A Night On The Town 1976
R・N・D・S

サルバドール・ダリ『足でた種元豆のある柔らかな構造 (内乱の予感)』1936
InQuint Industry - Songs For Insects 1992 ヘヴィメタル

画家自身がジャケット (盤面) のために書き下ろした逸品

PEEL SLOWLY AND SEE
Andy Warhol
アンディ・ウォーホル 1967年
The Velvet Underground & Nico
サイケデリックロック
実際にバナナを剥いでいく一連の過程を収めた複数のアルバム。剥がしていない作品は約100万円。バナナのスタンプを剥がすバナナの裏面が見える。

Toshi Ichiyanagi - オペラ横須賀劇団を歌う - 横須賀市立オペラ "From The Works Of Tadanori Yokoo" 1969
録音年 第一楽章 1969年 The 1969 RECORDER 唯一のCDリリース。録音年 第二楽章 1969年 録音年 第三楽章 1969年 録音年 第四楽章 1969年 録音年 第五楽章 1969年 録音年 第六楽章 1969年 録音年 第七楽章 1969年 録音年 第八楽章 1969年 録音年 第九楽章 1969年 録音年 第十楽章 1969年

Paul Robeson - Songs of Peace 1961
シベリヤではなく、レコードそのものの裏面にだけありの感がある。歌手、ソビエト連邦共産党書記長 Nikita Khrushchev がリリースした100レコード (Songs of Peace)。
高度寛容支持だったピカソは、同じく高度寛容支持だったポール・ロブソンに共感し、平和の象徴である白鳥を纏ってカバーを描いた。

Jackie Gleason - LONESOME ECHO 1965
本作はポール・ロブソンが友人だったため、彼もシベリヤでレコーディングしてあげた。録音年、美術監督はピカソ。

LP・CDのジャケットに使用された名画の数々

田中信明 1室 デザイン



遺作： 貝焼場のある川

神宮司 正 先生 F8 日本画



遺作：うそのよな 十六(いざよい)ざくら 咲きにけり

廣島 正 10室 切絵

天国の廣島君の想いを理解するために、下記に逸話を記しておきます。亡き廣島君の作品の背景には、いつも「物語」が秘められているように思われます。それを知っていないと、作品を十分には味わえないのではないのでしょうか。『余計なコツばすんな』という声も聞えるような、聞えないような----- 気がしますが。

<付記> [十六桜](https://open-shelf.appspot.com/JiuRokuZakura/chapter1.html) (https://open-shelf.appspot.com/JiuRokuZakura/chapter1.html) より

嘘のよな 十六桜 咲きにけり

伊予の国の和気郡には「十六桜」、あるいは「十六日の桜の木」と呼ばれる有名な大変古い桜の木がある。その木は毎年（昔の太陰暦で）一月十六日に開花し、その日のうちに散る。したがって本来の桜ならば春まで待つところを、その桜は大寒の時期に開花するのである。十六桜は自らのものではない命一少なくとも、もとはそれ自らの命ではなかった一をもって咲く。その木には、ある男の魂が宿っているのだ。その男は伊予の国の侍であった。木は男の庭で育ち、かつては並の時期（つまりは三月の終わりや四月の初め）に咲いていた。男は子供の時分にその木の下で遊び、季節が百たび以上もめぐる間、男の両親や祖父母、先祖たちは咲き誇る枝に賛美の句を記した明るい色紙の短冊をつるした。男もまた年老いた。その子供にはみな先立たれ、この世に男が慈しむものとして、その木の他に残されてはいなかった。それがなんと、ある年の夏に萎え、枯れてしまったではないか。

老人はその木のため、大いに嘆いた。親切な近所の者たちは慰めになればと、美しい桜の若木を見つけ、その庭に植えてやった。老人は感謝して、喜ぶふりをした。しかし本心は悲嘆に暮れていた。その古い桜をこよなく愛していたため、老人にとって、何物もその木に引き替えることはできなかつたのだ。

ついに、老人によい考えが浮かんだ。枯れゆく木をあるいは救えるかもしれぬ術を思いついたのだ。（それが一月十六日だった。）老人はただ一人庭にゆき、しおれた木の前で礼をし、こう語りかけた。「そら、頼むからわしの願いを聞き入れ、もう一度咲いてくれ。お前の代りに死んでやるのだからな」（神の取り計らいによって、人は他の人間、動物、はては木にさえ、魂を移すことができると信じられていた。このように魂を移すことは「身代わりに立つ」という言葉で、代わりになるということ表現される。）そして木の下に白布と様々の覆いを広げ、その上に座り、武士の作法に従って切腹したのだった。侍の魂は木の中に入り、花を同じ時間に咲かせるようになった。そしてその木はいまだに毎年、一月十六日の雪の時節に花咲かせるのである。



作品撤収に参集した仲間達。後列：長渡、古賀、鮎川、廣島夫人、宮崎、鈴木、武田、狩塚、志柿、前列：服部、清田、佐伯、田代（敬称略）



作品撤去に集まった面々。会場でのスナップ。左から、長渡、米村、宮崎、上田、古賀（敬称略）



左から、狩塚、鮎川、そして武田。(敬称略) 武田君は住岡君と共に、労を厭わず、毎年美術展を手伝って下さっています。



遊び仲間の3人組(狩塚、服部、上田)です。(敬称略) 限りある命を慈しみ、認知症と闘うために「創造的な遊び?」を心掛けています。それにしても-----、お腹が出て来たようです。



不言亭を運営しておられるお母さま方3人組。美貌は未だ衰えず、笑顔が爽やかです。

おわりに

同級生の仲間が次々に来世へ旅立っていく今日、限りない淋しさと、一方、命のありがたさを感じます。私達もいずれ、先だつた彼らに合流します。それまでの、おそらく短い期間を、才能の有無に拘(こだわ)らず、埋もれていた(?)己の「才」を掘り起こし、開花させてみたいものです。そして、その「証(あかし)」をこの芸術展で披露してみるのはいかがでしょうか。ここは上手、下手を論じる場ではないと、個人的には思っています。

42会のブログに留めておくために、ここに芸術祭のアルバムとして、リジナルを一部再構成して纏めてみました。一部の作品を除き、多くは展示場で撮った写真なので、精度は必ずしも良くないものもありますが、その点をご容赦下さい。また、作品のそれぞれに出品者からコメントを戴きたかったのですが、連絡が十分にとれず、必ずしも実現できませんでした。老年の徒然(つれづれ)に、ブログを開いて、このアルバムを味わって頂ければ、幸いです。(芸術部 部長 佐伯真知子)